



電腦博士Mr.HIROSEの

ITこぼれ話

第18回

「ドッグイヤーの大予想」

ITプランナー 廣瀬隆夫

今年も早いもので、桜の花見前線も日本列島を一気に北上し、フレッシュマンが颯爽とオフィスに姿を現す時期になりました。そこで、干支にちなんで激動のIT業界で、今年どんなことが起きそうか、新人諸子のために予想してみたいと思います。

テレビとインターネットが融合する

昨年は、放送局とIT企業のM&Aの話がマスコミを賑わせましたが、インターネットを使って、テレビCMと同じ収益モデルの映像配信が行われており、テレビ放送の地上波デジタルへの移行準備も進んでいます。ジョージ・ギルダは「テレビの消える日」という本を書いています、ある意味では、それが当たってきたと思います。

番組をテレビで見るかパソコンで見るかは本質的なことではありません。天井や鰻丼のよしあしを器で判断しているようなものです。重要なのはエビ天の海老の大きさや鰻の焼き加減です。手軽にネット上で日記などを公開できるブログが盛んですが、今年は、個人の放送局とも言える音声をブログで流すポッドキャストやビデオブログなどの普及が本格的に始まりそうです。テレビとインターネットの融合は、こんな小さなところから起こる感じがします。

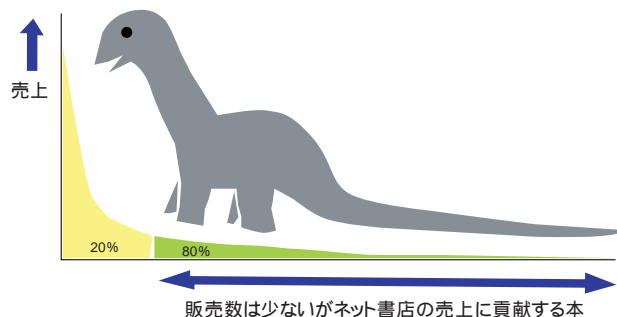
ロングテールの法則が席卷する

最近、チェーン店化された大型の書店が目立ちますが、そのようなお店で1年間に売れた本を売上

順に棒グラフを作ってみますと、左側には何十万冊も売れているベストセラー本が来て、右側には販売数が1000冊にも満たない本がずっと続くそうです。インターネットが生まれる前の書店では、この左半分のベストセラーが稼ぎ頭でした。売上の80%は、上位20%のベストセラー本が稼ぎ出していると言う、「80:20の法則」が常識でした。

ところが、アマゾンのようなネット書店になりますと、売上の半分以上は、販売ランキングが4万位ぐらゐのあまり成績の良くない右半分のしっぽの部分の本なのだそうです。この現象は、グラフが恐竜の長い尾のように見えるので「ロングテールの法則」と呼ばれています。インターネットの世界ではネットへ掲載の段階では在庫を持つ必要がなく、広告にコストがかからないので、「塵も積もれば山となる」のビジネスが成り立つということなのです。このように、ネットでは、今までのマーケットの常識を覆すことが起こる可能性があります。

図1 ロングテールの法則



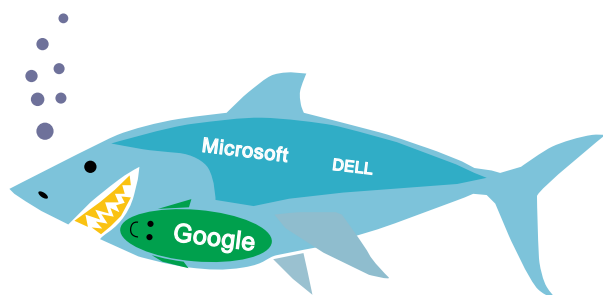
Googleが大躍進する

便利なGoogleの検索サービスが何で無料なのか疑

問に思ったことはありませんか。実は、私たちが検索したキーワードの情報は商品に仕立てられてマーケティング情報として企業に売られているのです。このGoogleが新しいメニューを増やしています。飛行機から眺めるように世界中の地図を検索できるGoogleマップや、ネット内だけでなくパソコンの中身のファイルを瞬時に探せるGoogleデスクトップは本当に便利です。

Googleのビジネスは、デルやマイクロソフトのように、パソコンのハードやパッケージソフトという形のある商品を販売しているのではなく、すでに人が作ったインフラの上で究極のコバンザメ商法を展開しているのです。今年の秋に、アフリカ、東南アジアなどの開発途上国の子供たち向けに100ドルノートパソコンが大量に出荷されますが、このプロジェクトにも資金援助をしています。チャレンジャーのGoogleが、次にどんなサービスを提供してくるか非常に興味があります。

図2 Googleのコバンザメ商法



斬新な携帯サービスが登場する

ソフトバンクグループが携帯電話事業へ本格的に参入しました。NTTドコモを擁するNTTグループ、躍進を続けるKDDIグループが三つ巴で覇権を争うことになりました。もう一つの注目すべき出来事が、MVNO (Mobile Virtual Network Operator) という新しい業者の参入です。今までは、無線の設備と免許を持っている資本力のある少数の会社がサービスを提供してきましたが、MVNOは通信のインフラを持たなくても設備を借りてサービスの提供が可能です。

社員用の携帯電話回線を企業と契約して一台の携帯電話で公用、私用に分けて課金ができるサービスや、独自の携帯端末を使っでのデータ通信など、分野に特化したサービスや料金の低価格なサービスが出てくると思われます。海外では音楽事業で世に出て航空事業に転身した英国のヴァージングループも独自のMVNOで携帯業界へ進出し成功しています。今年は、通話とメールだけという固定観念に囚われない斬新な携帯サービスの登場が期待できそうです。

iPodで本を読むようになる

Appleが開発したiPodは、全世界で累計5千万台近くが販売され、今でも売れ続けています。その成功の要因は、単に音がいいとか、コンパクトということだけでなく、インターネットで好きな曲を手軽に購入できるiTune Music Storeの存在が大きいです。ネットを利用して音楽を聞くという新しいライフスタイルを定着させたiPodは、すでに情報流通のインフラになりつつあります。

そのiTune Music Storeのサイトにアクセスしますと、様々な曲に混じって、iPodで聞く書籍としてオーディオブックというジャンルが目につきます。ベストセラーになった「さおだけ屋はなぜ潰れないのか？」や「NHK落語シリーズ 桂文楽」なども並んでいます。iPodイコール音楽という考えは古いのではないのでしょうか。今年は、iPodで狭い満員電車の中や散歩中に本を読むという読書のスタイルが定着するかもしれません。

テレワーク人口が増加する

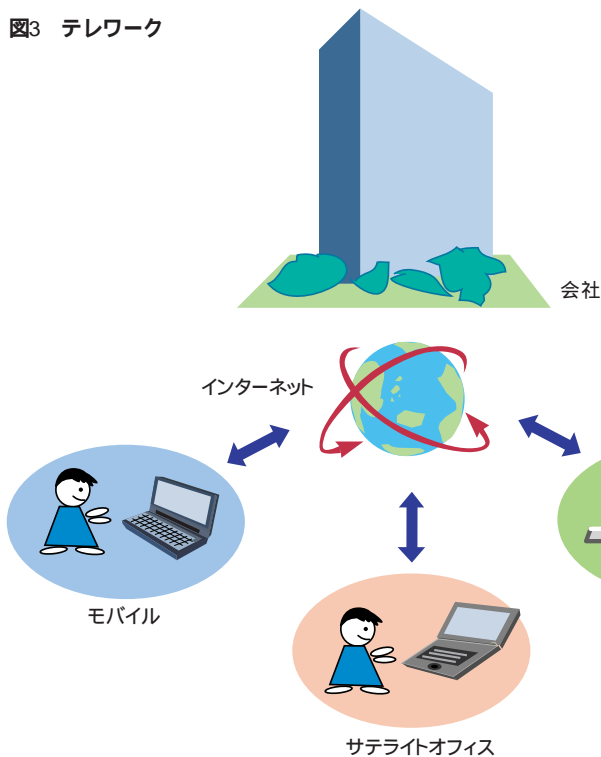
個人情報保護法が施行されて、世の中が窮屈になってきたと感じませんか。出身地や血液型などの話が載っていない社内報の新人紹介コーナーほどつまらないものはありません。社員名簿が廃止され年賀状も満足に出せなくなりました。インターネットでは、匿名性がはびこり、無責任な発言が横行しています。しかし、この法律のおかげで、様々なセキュリティツールが商品化され、インターネットが随分、



安全になりました。

20年近く前に、ネットを使って自宅やサテライトオフィスで働くテレワークの実験が行われましたが時期尚早ということもあり導入は進みませんでした。しかし、今では勤務形態もかなり自由になり、高速なブロードバンド回線と、このセキュリティ技術を使えば、テレワークを安全に実現できると思います。米国では、ネットを使って自宅や仕事をしている人が20%を超えていると言われています。テレワークの普及が、働く意欲を持った高齢者の再雇用や、ニート、フリーターと呼ばれる人たちの社会参加にも貢献するのではないかと期待しています。

図3 テレワーク



年配向けの簡単パソコンが登場する

高度成長を支えた企業の第一線で働いていた人たちが定年退職を迎え、お金も時間もたっぷりあって、パソコンを使いこなせる年配の方が増えています。パソコンで絵を描いたり、ネット上で俳句やエッセイをやり取りするサロンも盛んになっています。しか

し、今のパソコンは、液晶の文字が小さかったり、キーボードが打ちにくいなど、熟年の方にとって決して使いやすいものではありません。ソフトも複雑で、余計な機能が多すぎて初心者には敷居が高いものになっています。

昔は、「文豪」とか「オアシス」というハードとソフトが一体化したワープロ専用機がありました。電源を入れればすぐに使えて、パソコンより遥かに使いやすいものでした。この使い勝手を継承した、ホームページの閲覧や電子メールなども使えるインターネット時代のお手軽なパソコンはできないのでしょうか。昨年は通話機能だけのシンプルな携帯電話がヒットしました。今年は使い易さを前面に出したミドルやシニア向けの使いやすいパソコンを、ぜひ商品化してもらいたいと思います。

ロボットビジネスが躍進する

愛・地球博でもロボットの展示ブースは大評判でした。ソニーの犬型ロボット「AIBO」やホンダの人型ロボット「ASIMO」だけでなく、災害時に活躍するレスキューロボットや介護ロボット、警備ロボットなども開発されています。秋葉原のロボット専門店には、かつての自作パソコンのように、部品を選んで自立型のロボットの組み立てができる10万円を超えるキットが、マニアの間で人気が出ています。

世界的に見ても日本のロボット研究はトップクラスで、特にヒューマノイドと呼ばれる人型ロボットは独壇場です。アニメやロボットが強いのは、日本には八百万（やおよろず）の神が住んでいるからとも言われています。ロボットの設計には電子工学、機械工学、物理学、哲学、心理学、社会学などの総合的な研究が必要なことから、学生たちの科学離れを阻止するための教材としても有望です。そんなに遠くない未来に鉄腕アトムのような楽しいロボットが日本から登場することを期待します。